

- ◆ 会 場：柏崎原子力広報センター 研修室
 - ◆ 出席委員：新野・久我・佐藤・三宮・高橋(武)・武本・前田・渡辺委員 …8 名
 - ◆ オブザーバー：保安院／廣瀬企画班長 今井所長 濱田保安検査官 エネ庁／沼田所長
東電／長野副所長 守GM
 - ◆ 事務局：柏崎市／藤巻主任 広報センター／押見事務局長 木村主査
-

次回以降定例会内容

➤ 3 月定例会 (3 月 5 日)

- ・ 本来であれば、福島視察の感想等の意見交換をするところだが、時間の関係上、文書で出してもらったらどうか。→委員賛同

〈東電〉

- ・ 前回、建物の傾きの件で、次回説明させてもらいたい旨の経過があり、説明の時間をいただきたい。

なお、15 日に国の合同ワーキングの中で、地震後の水準点の補正を反映した形で報告をしている。そのデータ資料を用意しているので、次回定例会前に事前配布してお目通しいただきたい。

東電として、明確な回答を出せる段階ではないので、説明をした後、委員さんからも問題点を指摘していただくということで、結論を出すまでにはいたらないと考えている。

説明時間は 20 分程度。

〈委員〉

- ・ 争点を明らかにするということではないか。
- ・ 何が問題かということくらいはみんながわかるようにしておくべき。
- ・ 東電説明のあと、引き続き、委員の説明をもらったほうが良い。

委員の指摘事項

- ・ 2006 年から 2008 年までにかかなり地盤全体が浮き上がったという数字が示されていて、それが号機によって違う。3 号機が特別浮き上がっているという原因は何か。
- ・ 国の委員会に 7 月の傾きのデータが 10 月に提出されたが、今回出たデータと違っている。東電は観測精度の違いによるものという説明をしているが、7 月以後も地盤が動いているのではないかとこの疑問がある。

〈委員〉

- ・ 提出されたデータで異常なしということになるとすれば、どういう基準でそうなるのかを示してもらいたい。
- ・ 東電の、十分に小さい値だという説明に対して、基準がいくつなのかを国にはっきり示してもらいたい。
- ・ 数字の価値のよく解る人とそうでない人がいるので、1 ミリが大事なのか 1 セン

チが大事なのか、どれくらいまで大丈夫なのかを示してもらわないとわからない。

- ・ 機械がいくら頑丈であっても、あの場所に置いておけないという議論がある。これをあいまいにすることはできない。

〈東電〉

- ・ 地震直後に公表した測定の精度と今回の精度が違う。

〈委員〉

- ・ 一般市民はこの数値が、本当に安全なのかどうかという思いがある。
- ・ 福島でも同じように測定していると聞いた。同じような数値が出ているのかどうか。
- ・ 東電がこのような測定をしているのを、国は知らなかったと聞いている。地震前も動いているような事実は把握していなかった、自主的な調査だとも聞いている。傾きのデータに対し、これでもいいのかというのがこれからの議論。良いという判断は何によってするのかという根拠を、今後示すべき。
- ・ 地元の疑問を持っている住民に対し、どういうふうに答えを出していくのか、資料データを踏まえてどう評価していくのかというような内容になるのでは。

〈東電〉

- ・ 地殻構造運動という指摘事項については、3月の段階では明確な回答はできない。

〈委員〉

- ・ そのように答弁してもらえばよい。
- ・ 地殻構造運動をしているとしているというが、岩盤がどうなったら地殻構造運動があるというのか、その辺がよくわからない。
- ・ 地震の揺れはある意味、一過性のもので、それに耐えたかどうかということでもいいと思うが、地震前・地震時・地震後も揺れ動いているということがわかれば議論の前提はないと個人的には思っている。
- ・ 新指針も旧指針も地殻構造運動のあるところには発電所を建てないということがあるので、何を基準に、何を尺度にしているのかということを知りたい。

〈保安院〉

- ・ 評価のデータは出ているが、測定の方法や背景などを3月の定例会前に知っておく必要があると思うが。

〈東電〉

- ・ 後日検討して、直接保安院と連絡をとりあう。

〈委員〉

- ・ 他でもこんな測定をしているのか、と聞いたら福島でやっているとのこと。福島での測定結果も同じような傾向を示していれば、納得できる部分もあるので、全国でどうなっているのかということも調べてもらえるのではないかと。
- ・ データが出てくる。調べているということは、逆に建物は一定の範囲内で動くものだろうと思っていた。これが、これ以上は危ないというような基準を示してもらえれば、素人としても理解しやすいのではないかと。

〈東電〉

- ・ 原子力の建物について傾きの明確な基準は特にないということ。比較するために、一般建築物の基準はあるのだが・・・。
- ・ もともと全く動かないということは考えていなかった。自重で建物が下がることもあるし、掘削による影響もあると聞いている。

〈委員〉

- ・ 建物の傾きの件は、地盤が動いているのではないかという根拠に絡むものとして出してもらったのであって、地盤が動いて発電所が揺れ動いているのではないかというのが主流の議論。
- ・ 建屋の傾きのデータは、要求してから4ヶ月も経って出たもの。東電の自発的な公開ではなかった。要求しなければデータが出てこないような関係でいいのか。

〈東電〉

- ・ 設備的には問題となる傾きではないと判断しているが、地盤が動いているのではないかという点については今の段階では明確に回答できない。

〈委員〉

- ・ 世間一般の感覚とすれば、点検が終わって異常がなかったとすれば、そういうことなんだと。地盤の問題は、別個にある話なので、これはわかるように説明してもらったほうがよい。テレビなどを見ても地盤については危ないのではないかと思うので。
- ・ 今後、詳細点検をしたり、解析をしたりと大変な作業はこれからも続くと思うのだが、多くの人に、目視点検が終わってこれで大丈夫だというような受け止められ方をされているのは非常に残念。原発はそれほど甘いものではない。

〈東電〉

- ・ 視察の際に、どんな点検のやり方をしているのか等、説明させてもらう。

〈委員〉

- ・ 屋根の上に積もる積雪にしても、例えば2mくらいが限界だとするところを、3m60cmでも問題ないということには通常ならないはず。今回の地震動もすごいものを受けているわけだから、耐える実力があつたから大丈夫だと言われてもそういうことにはならないと、みんなが感じてもらいたい。
- ・ 東京と地元の違いという点で、東京の方の人たちは、壊れなかったのだから動かせるものなら動かしたらどうかという考え。地元は、動かすまでの経過をきちんと整理しながらやっていってほしいという願望がある。地元での「大丈夫」と東京の「大丈夫」のスタンスが大きく違う。地元で、検査後、この範囲内で大丈夫だとすることが、東京では運転しても大丈夫というように、物事を捉える感覚が全く違う。国も企業も、東京と地元を行き来する人が、その辺を配慮していく必要がある。
- ・ 賛成でも反対でもない中間的な市民は、設計の3倍の揺れがあつたのだから、大変なことだと思っている。点検した結果の数字が、納得させるだけの根拠になりうるのか疑問。
- ・ 地核変動の話と設計の話は別問題。初期の設計がどういう基準で設定したのかが

問題。過剰設計だったのかという問題と、設計以上にもったということであれば、なぜもったのかという解析が必要。

- ・ 設計許容値がどれくらいであったかがわかって、解析結果がどうであったかがわかればいいのでは。これが安全率だと思う。
- ・ 住民の不安を取り除くような、わかりやすい説明をしてもらいたい。
- ・ どういう問題があるのかというのが次回の議論になるのでは。

➤ 4月定例会（4月9日）

- ・ 3月に東電から出される結果についての説明。
- ・ 本来であれば、県外視察の意見交換を行うところだが、時間がとれないこともあり、委員には文書で出してもらったらどうか。

➤ 5月定例会

- ・ 第一水曜が連休明けであり、日程的に厳しいこともあり、5月14日（第2水曜）で検討しているということでしょうか。

2月県外視察について

〈東電〉

- ・ 福島のプラント視察だが、1号機にするか5号機にするか。5号機は着替えが必要で、1号機は作業着で可。

〈委員〉

- ・ 一番古い1号機を見せてもらったらどうか。（全員一致）

〈事務局〉

- ・ 参加者は事務局も入れて21名。
- ・ 情報会議との懇談に東電も傍聴。
- ・ 事前に先方の委員に、地域の会を説明するような資料を送付しておく。

3月発電所視察について

- ・ 3月2日（日）3日（月）

〈委員〉6,7号機のコンクリート製の格納容器のひびがわれている写真が公開されている。ひびわれ調査はいつごろまとまるのか。それにもとに、ひびわれの箇所を見たい。

↓

〈東電〉6,7号機のひびは地震前から入っていると聞いている。どういう調査をしているのかという説明とあわせて見学してもらうことは可能。

〈委員〉点検評価をどのようにやっているのかということを見たい。

↓

〈東電〉外観目視、動かせるものは起動させる。さらに、今回の地震においてどうだったのかという解析評価を行っている。

〈委員〉

- ・ 視察に入る前段で、点検評価に関する 20 分くらいの説明をもらったほうがよい。
- ・ 再循環系配管が一番きびしいところだと言われているので、そちらも見たいが時間的に無理か。無理なようなら、ひび割れの箇所は写真での比較でもいいのだが。
- ・ 1号機で、水が溜まった箇所がどうなったかも知りたい。

➤ 日程等

- ・ 視察時間は1時スタート。前段説明 20 分。視察 2 時間半。質疑応答 30 分。
- ・ 委員要望を踏まえ、東電から視察案を作成してもらい、県外視察のバス中で全委員にはかる。欠席委員には事前配布。
- ・ 視察参加名簿締切は 26 日（水）。福島視察参加委員は視察中に参加希望をとる。

保安院住民説明会について

〈保安院〉

- ・ 3月1日ラピカにて
- ・ 説明会は今後1ヶ月から2ヶ月半くらいをかけて続けていく。
- ・ 説明内容は、その時点での結果を付け足すような形で、少しずつ変わっていく。

〈委員〉

- ・ 調査・対策委員会の関係者にも同席してもらう必要があるのではないかと。

➤ 委員周知

- ・ 福島視察参加者については、バス中で案内文書を配布。欠席委員には事前配布。

来年度視察について

- ・ アンケート結果を踏まえ、福島視察のバス中で話をする。
- ・ 県の技術委員会視察の件などもバス中で話を出してもよい。

視点について

〈事務局〉

- ・ 原稿で、ライターがまとめたものには、意見書についての議論があまり書かれていなかったため、事務局で書き足した。
- ・ 56 回定例会と、2月の視察、3月の視察、の内容となる。
- ・ 市民懇談会の報告も掲載。

〈委員〉

- ・ S1とS2は解説をつけてもらってはどうか。
- ・ S1、S2は、模擬的な言葉に置き換えたほうがわかりやすいのでは。
- ・ 視察は報告程度でどうか。

その他

- ・ 次回運営委員会 → 3月12日（水）6時半から、広報センターにて。
- ・ 委員質問意見については、東電、保安院から説明。